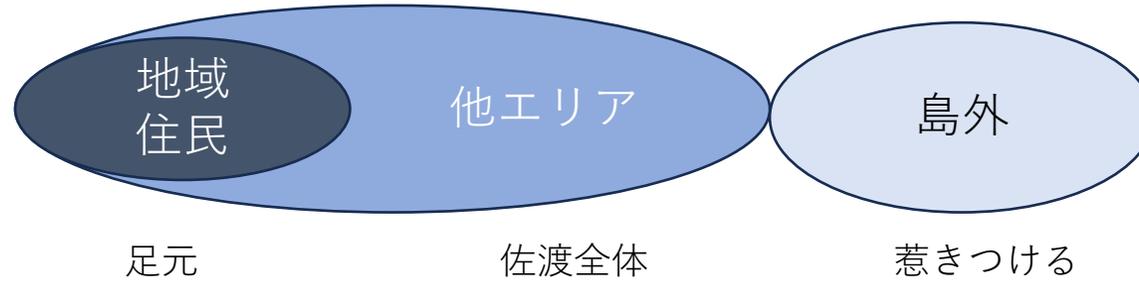


公共施設のあり方を考える際の指針

- 施設がある地域の住民と、外の住民と一緒に考えることが重要。地元をひいきしてしまいがちだけれど、佐渡全体のことを考える客観的視点も必要。
- 延床面積30%という目標だとイメージがしづらい。面積ではなく、維持管理にかかる経費をどれだけ削減できるかという方が考えやすい。
- 施設の価値は現場を見ないと評価が難しい。施設のことをよく理解している人と現場を見る機会が作れるとよい。
- 複合化、廃止、統合のほか、無償賃借をやめて有料化するなど、できる工夫を考えることが重要。→むしろ公的施設は極力無償化する必要はあるのではないか？
- 縮小ではなく、新しい価値を生み出すための話し合いにしよう。

視点



指標

延床面積
30%削減

→
言い換え

維持管理コスト
%削減

※コストがかからない、リスクが低いものは延命処置もあり。

評価

現場視点

現地 + 施設関係者 + 利用者 の3視点

方策

複合化

廃止

統合

+

経営的視点も
大切

スタンス

縮小 ではなく **新しい価値を生み出す話し合い**

明るく未来を生み出す話し合い, 前向きなエネルギー → 他地域の人を惹きるけるくらいの
施設の議論のまえに、コミュニティの連携強化